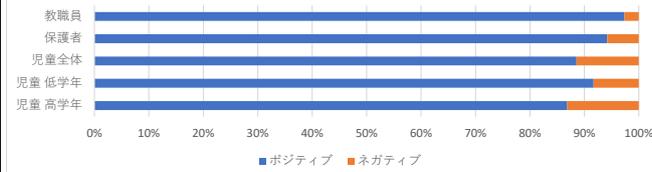


4 令和3年度 学校評価アンケート 回答結果と項目ごとの分析・考察

1 学校に、楽しく通っている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	97.4	94.2	88.6	91.7	86.9
ネガティブ	2.6 ₁	5.8	11.4	8.3	13.1



①設問1～5は、学校生活や友達関係についての全般的な内容です。

①設問1では、三者ともに9割前後が「学校に、楽しく通っている」と考えています。しかし、高学年の児童に関しては86.9%で学年に15人程度「そう思わない」と考える児童がいます。

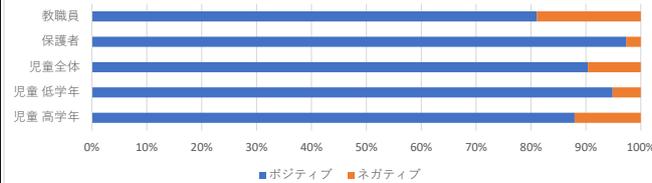
授業の内容が難しくなるにつれて「楽しく」思えないのか、友達関係なのか、その両方か、それ以外の理由なのか、個々に理由は違うと思いますが、その原因を探り解決していきたいと思います。

学校では、集団の中でその児童や学級の傾向を調べるQU検査や、いじめアンケート調査、体罰・セクハラアンケートなどを実施したり、日頃の観察や個別面談を実施したり、保護者から情報を得たりしながら、個々の特徴を捉え、悩みを解決したいと考えています。

また、教育相談活動や道徳教育の充実、日常の中でコミュニケーション能力を高める教育活動を行うことで、円滑な人間関係作りを学ばせていこうと考えます。

2 運動発表会や校外学習などの行事は楽しい。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	78.9	97.3	90.4	94.9	87.9
ネガティブ	18.4	2.7	9.6	5.1	12.1



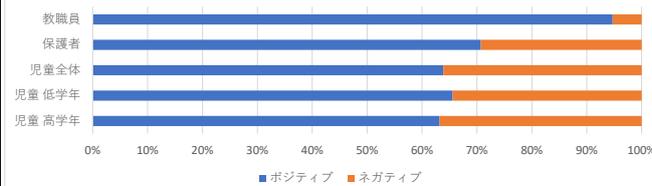
②設問2では、保護者と児童の9割が「運動発表会や校外学習」を楽しい行事と捉えています。しかし、教職員は8割を下回りました。理由としては、やはりコロナの影響があると考えられ、運動会や校外学習に制約があり、例年と同じには実施できなかったことや、特に修学旅行や林間学校が実施できなかったことに対する残念な思いの強さが感じられます。

高学年児童の結果が9割を下回っているのも、このためだと思われます。

ただ、開催や実施そのものが検討されていた中で、感染症対策を取りながら形を変えて行った運動発表会や校外学習に対する保護者の肯定的評価の高さ(97.3%)は、実施に向けて頭を悩ませていた教職員にとっては、たいへん勇気づけられる結果となりました。次年度も「with コロナ」は変わらないと思いますが、児童の教育活動を知恵を絞って工夫していきたいと思っています。

3 生活や学習で、先生にほめられる。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	94.7	70.7	63.6	64.8	62.9
ネガティブ	5.3	29.3	36.0	34.0	36.6



③「人は委縮している中では、力を発揮できないし、力を伸ばせないだろう」と考えます。また逆に「人からほめられることで、より一層活動(学習)意欲がわき、自分から進んで考えたり行動に移したりするだろう」と考え、実際の感じ方の違いを知ろうとして、この設問3を設定しました。

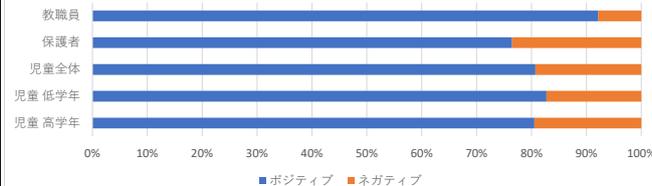
結果は、ご覧の通り、教職員はほめているつもりだけど、4割近い児童がほめられていないと感じています。設問10「忘れ物や宿題忘れがない」の結果と見比べると興味深いです。児童の数値がほぼ一致しています。逆に教職員の数値はかなり低いです。教職員は、日頃ほめているつもりでも、注意しなければならぬことがあれば注意します。児童は、注意されることが多くなれば多くなるほど、ほめられたことが相殺されてしまうのではないかと解釈することもできます。それに伴い、児童の自己肯定感や自己有用感も下がってしまいます。

教員には、今後も意識的に児童の良いところを見つけほめていくように啓発していきます。ぜひ、ご家庭と協力して児童の自己肯定感を高めていきたいと思っています。

日頃から、落ちているごみを恣意的に児童に拾わせてでも、「ありがとう」「あなたは素直だね」などとほめるようにしています。これは、低・中学年には効果的です。しかし、自我が目覚め批判的な目が育ってくる(これは成長過程ではとても大事なこと)高学年になると、「自分で気づいたなら、先生が拾えばいいのに」と考えるようになり、教員と児童との誤解や齟齬(そご・行き違い)も生まれてきます。いわゆる反抗期といわれる時期で、指導もなかなか難しくなる年齢です。ご家庭でも、そのようなことがあるかもしれませんが、それは一つの成長の証として見守っていただければと思います。忘れては、気づいていないだけで、私たちが多かれ少なかれ、そんな時期を通り過ぎて来たわけですから。

4 友だちのよいところを、見つけられる。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	92.1	76.3	80.6	81.4	80.2
ネガティブ	7.9	23.5	19.2	17.0	19.4

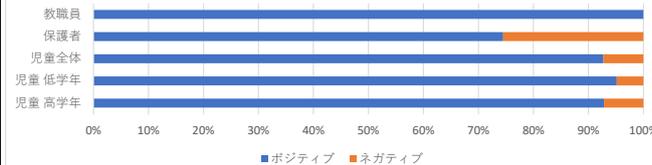


④設問4では、教職員と児童の肯定的回答が8割を超えています。個性も成長歴も家庭環境も異なる集団の中で円滑に生活を送るためには、互いの違いを尊重し、良い点や努力している点を認め合うことが極めて大切になってきます。

学校では、学級の時間や学習の中で人間関係作りのスキルアップの学習を意図的・計画的に行っています。その成果の現れの一つかもしれません。児童のこれからの社会生活にとって、とても大切な項目だと思います。

5 友だちと仲良くしている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	100.0	74.3	92.6	93.3	92.2
ネガティブ	0.0	25.4	7.3	4.7	7.1



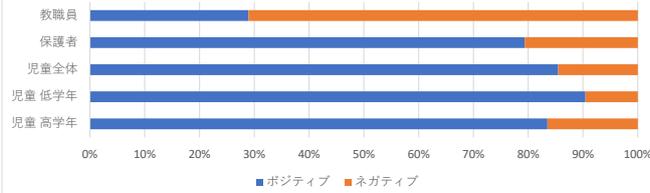
⑤それでは、実際に学校生活の中で、友達と仲良く過ごせているかを尋ねたものが、設問5です。

児童は、90%を超える肯定的な結果が得られ、ほっとしているところですが、各学年で約7% (約7~8名)の児童が、友達と仲良く過ごせていないと考えているという事実を重く受け止めたと思います。

設問1「学校に、楽しく通っている」の否定的回答の内の何人かが、「友達関係」が原因で悩みや苦痛を感じているとも考えられますので、設問1のコメントにも示しましたが、日頃の観察や相談活動、各種アンケート、ご家庭との情報交換の中で解決の糸口を探していきたいと考えます。ご協力をお願いします。

6 あいさつや返事ができる。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	28.9	79.2	85.4	89.7	83.0
ネガティブ	71.1	20.6	14.5	9.5	16.4



設問6～10では、集団生活・社会生活の基本となる「基本的な生活習慣」について、「あいさつ・返事」「時間を守る」「決まりを守る」「掃除・係の仕事」「忘れ物・宿題忘れ」の5つについて尋ねてみました。

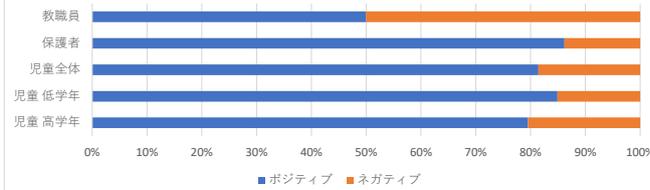
⑥設問6の「あいさつ・返事」については、約85%の児童が自分ではできていると考えていますが、教職員の肯定的評価は3割に満たないという結果になりました。

これについては、教職員は「自分から進んで行く挨拶」を求めています。できれば、相手の名前を添えたり、一言加えたりという高い目標を持っているため、その分評価も厳しくなってしまうと考えられます。

いずれにしても挨拶は、コミュニケーションの大切な入口なので、今後も家庭と協力して、高い目標・理想に向けて指導を行っていききたいと思います。

7 時間を守って生活している。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	50.0	86.2	81.3	84.6	79.5
ネガティブ	50.0	13.8	18.5	15.0	20.5

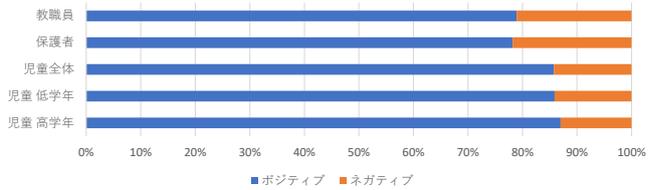


⑦設問7の「時間を守る」では、約8割の児童が自分ではできていると考えていますが、教職員の肯定的回答は5割という結果になりました。

学校生活の中での「時間を守る」は、業間休みや昼休みの終わりの時間、掃除への取りかかると終了時間などです。遅れた児童は、大きな遅れとは思っていませんが、次の学習（授業）を計画通り進めようと考えている教員にとっては、大変困ることです。そのあたりの意識の差が、この結果の差になっているのではないかと思います。児童には、引き続き時間を守ることの大切さを指導していききたいと思います。

8 きまりを守って生活している。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	78.9	78.2	85.6	84.2	86.4
ネガティブ	21.1	21.8	14.2	13.8	12.9



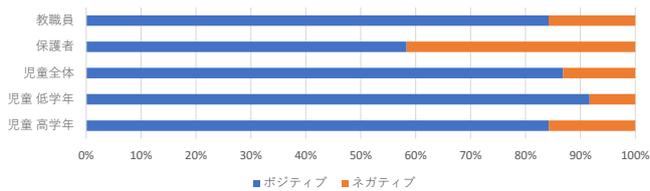
⑧設問8の「きまりを守る」では、約85%の児童が自分ではできていると考えています。この項目については、教職員の肯定的評価も8割に近い結果となりました。

比較的、本校の子供たちは「ルール」を守って生活しているようです。細かく見ればざりがありませぬから割愛しますが、登下校の仕方については、命にかかわることなので、今後も校外での「きまりを守る」ことについては、厳しく指導していききたいと思います。ご家庭でも指導の協力をお願いします。

たまたま、「規則は破られるためにある」ということを耳にしますが、これは「記録は破られるためにある」をパロディにしたもので誤りです。「マナー（礼儀作法）」「モラル（道徳）」「ルール（規則）」の頭文字を取って、「マ・モ・ルを自分が守ることによって、自分自身が社会から守られるのだ」ということを教えていききたいと思います。

9 まじめに、掃除や係の仕事をがんばっている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	84.2	58.4	86.6	91.3	84.1
ネガティブ	15.8	41.6	13.1	8.3	15.7

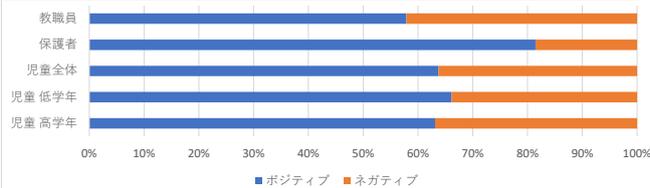


⑨設問9の「掃除や係の仕事」では、教職員・児童ともに、約85%以上ができていると考えています。毎日の掃除の様子を見ていると、学年関係なく、本当によく働いている児童がたくさんいます。冬の凍えるような寒い日でも、バケツに水を汲み、廊下に四つん這いになって雑巾がけをする姿には、頭の下がる思いです。もちろん、教職員も一緒に掃除をしています。

しかし、保護者の肯定的評価は6割を下回ってしまいました。これは、その他の設問で教職員からの評価が厳しいのと同じように、家でお手伝い等、もっとこうあってもらいたいという保護者の願いの現れではないかと思いますが、いかがでしょうか。

10 持ち物忘れや宿題忘れがない。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	57.9	80.9	63.7	65.6	62.7
ネガティブ	42.1	18.4	36.3	33.6	36.6



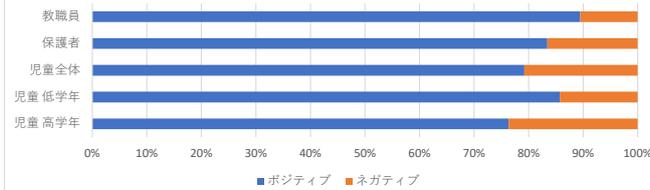
⑩設問10の「持ち物忘れや宿題忘れをしない」の結果は、設問3でも書きましたが、「学校が楽しく思えない」割合とほぼ合致しています。持ち物忘れや宿題忘れは、もちろん児童自身が気を付けることですが、それにより、注意を受ける数が増え、自己肯定感や自己有用感が下がり、学校が楽しくなくなることは、児童の成長や学習にとって大きな損失（マイナス）となります。

教員にとっても、学ぶべき時に持ち物がなく学ばせられないことや、忘れ物をした児童の学習の準備をしたり、別のやることを考え指示したりすることで、学習時間が削られ計画していた学習内容が不十分になり、学習の効率を下げることになります。

そのあたりを保護者の方にも理解していただき、ぜひ、次の日の持ち物の準備や宿題が終わっているかの声掛けをお願いしたいと思います。持ち物の連絡については、確実に把握できるように、今後も連絡帳を活用していきます。

11 学習は楽しく、いろんなことに興味がわく。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	89.5	83.1	79.2	85.4	75.9
ネガティブ	10.5	16.5	20.8	14.2	23.5



設問11～15では、学校での学習についてや、児童の資質の向上につながる「読書」や「運動」について尋ねてみました。

⑩設問11「学習の楽しさ・興味」については、三者ともに約8割が肯定的な回答でした。しかし、肝心の児童の肯定的回答が一番低い数値でした。

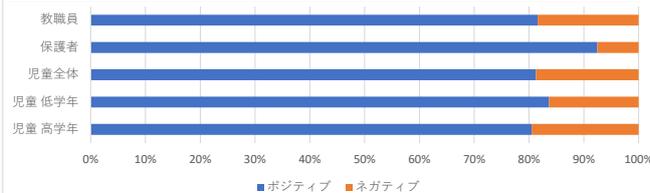
コロナ禍での「対話的な学び」や「実習」などに制限があったことが原因の一つと考えられます。

教職員の出張研修は激減したものの、校内では各勤務年数に応じた授業研究や様々な校内研修を行ったり、互いの授業を参観したりして、児童の興味がわくような導入部分の工夫や、理解しやすい指導法や教材作りを行ってきました。これからも児童を引き付ける授業を考えていきたいと思えます。

現在、GAGAスクール構想の一環で一人に一台パソコン(タブレット)が使えるように準備していますが、学習(授業)中での効果的な活用方法や、感染症による休校時のリモート授業などに向けての職員研修も行っていく予定です。

12 学習はわかりやすく、学んだことが身についている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	81.6	92.0	81.0	83.0	80.0
ネガティブ	18.4	7.5	18.7	16.2	19.4

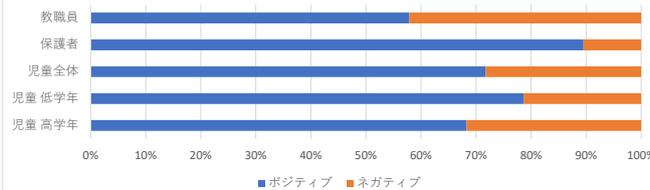


⑪設問12では、三者ともに約8割が肯定的な回答でした。特に、授業者である教員と学習者である児童の数値がほぼ一致していました。つまり、8割の教員と児童が学習内容が習得されていると実感しているが、反面2割の教員・児童自身は、学習の習得が困難に感じているということです。

この2割の児童が学習内容を習得するために、これからも工夫と努力を続けていきます。

13 学習の中で自分の考えを持ち、友だちに伝えている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	57.9	88.9	71.5	78.7	67.7
ネガティブ	42.1	10.4	28.2	21.3	31.5



⑫設問13では、三者の数字が分かれました。保護者は学習中の発表を9割近くの方ができていると感じていて、実際の児童自身は7～8割程度にとどまり、教員からは6割に満たない結果でした。

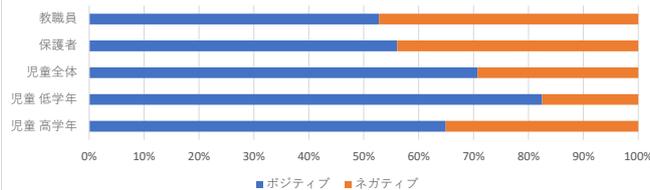
教員による肯定的回答が低いのは、設問6の「あいさつ」にも書いたように、日頃の児童の姿からだともっと学習(授業)中でも積極的にできるはずだという思いの現れではないかと思えます。もちろん、そのような授業運びが行えなかった教員自身の反省も込められています。

日頃から「学校は間違えるところだ」「間違えをおそれずに発表することで、しっかりと記憶に残って次は間違えないようになる」とは言っていますが、表(グラフ)を見てわかるとおり、低学年と高学年の差が大きいことは、発達段階によるもので、低学年より高学年の方が他者を意識しだし、「恥ずかしい」と考えるようになることが原因の一つに挙げられます。

そのようなことも含めたくうえで、どうすれば児童が自分の考えを持ち、人前で堂々と発表できるようになるのか、そのような雰囲気づくりも含め、教員側が考えていかなければならないと思えます。

14 進んで読書をしている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	50.0	55.9	70.7	81.8	64.7
ネガティブ	44.7	43.8	29.3	17.4	34.9



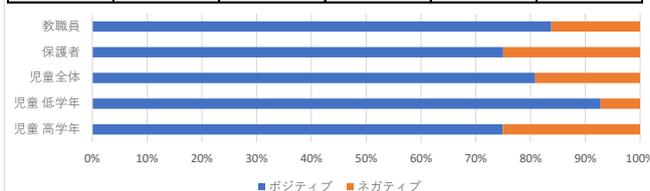
⑬設問14では、これからの生涯学習につながる「読書」について、尋ねました。高学年になると、やらなければいけないが増えるのでしょうか。低学年と比べるとかなり差があります。忙しくて読書する時間がないためか、読み物自体が難しくして読みずらくなるのか、はたまた、ネットなどで時間が奪われているのか、理由は個人によって異なると思いますが、生涯学習の観点では、やはり読書はかなり有効な手段なので推奨したいと思います。

今年度は、コロナ禍で、自宅で過ごす時間が例年より増えていると思えます。本の扉を開けば、どこにでも自由に行けます。そんなファンタジーを是非、児童に伝えていきたいと思えます。

教員と保護者の回答には、もっと読書してほしいという願いが込められ、低い結果となったと思われま。

15 進んで運動をしている。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	81.6	74.8	80.8	91.7	74.8
ネガティブ	15.8	24.9	19.1	7.1	25.0



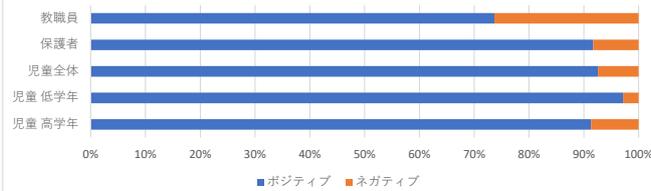
⑭設問15では、これからの生涯体育につながる「運動」について、尋ねました。教員と児童全体では、肯定的回答が8割を超えていました。高学年と保護者については、やはりコロナ禍で家に帰ってからの外遊びが減ったことが原因の一つと考えられます。

学校では、業間休みや昼休みの外遊びは行っていますが、手洗いの指導と低学年と高学年の時間を5分ずつずらし、手洗い場が込み合わないような感染症予防対策をしています。

早く新型コロナウイルスが収束して、児童が思う存分、友達と遊べるようになることを願います。

16 感染症予防に気をつけている。

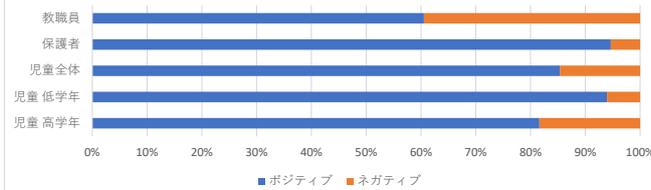
	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	73.7	91.3	92.3	95.3	90.7
ネガティブ	26.3	8.2	7.4	2.8	8.6



設問16～20では、安全に対する意識・取組や、教育相談について尋ねました。
 ⑩設問16は、「感染症予防」についての安全意識・安全対策について、児童・保護者からは9割を超える肯定的回答が得られました。それぞれ気をつけて生活している様子うかがえました。
 また、設問23の学校の感染症対策についても、保護者から9割の肯定的回答をいただきました。今いる教員の中では誰も経験したことのない中、また新型コロナウイルスがどのようなものかわからない中、情報を収集し、関係諸機関と連携を取りながら手さぐりで対策を取ってきたことが評価されたものだと思います。
 大勢人が集まる場所ですから、どんなに注意してもしすぎるということはありません。しかし、児童の安全確保と同時に学校および教員は、児童の学習の向上も目指さなければなりません。今後も、ぎりぎりの判断を迫られる場面があるかと思いますが、安全と学習の最大公約数を探しながら学校教育を行ってまいりますので、保護者の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。なお、今後も家族や兄弟に風邪症状がある場合には登校を控えてください。

17 青信号でも、左右を確認している。

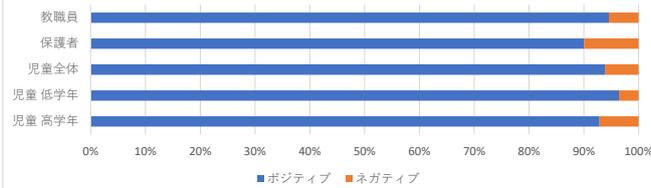
	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	60.5	94.4	85.2	92.5	81.3
ネガティブ	39.5	5.3	14.6	5.9	18.3



⑪設問17は、「交通安全」についてお尋ねしました。新型コロナウイルスも怖いですが、交通事故も非常に心配されます。昨年、本校は県と市の交通安全教育の指定を受け、6年生（現中1生）が、スタントマンによる事故現場の再現「スクエアドストレート」教室を実施したのをはじめ、全学級で安全教室を実施しました。
 学校の立地上、国道6号線とJR常磐線の天王台駅に挟まれた住宅地を学区としているため、国道へ向かう自動車や駅に向かう自転車との接触事故が常に懸念されます。そのため、学校では、「自分の命は自分で守る」「青信号でも左右を確認する」を合言葉に交通安全指導をしています。
 この調査を契機にして、児童はもちろん、保護者にも交通安全意識を高めていただきたいと考えました。ぜひ、ご家庭で今一度、安全な登下校の仕方や、帰宅後の自転車の乗り方について話題にさせていただけたらと思います。

18 地震や火事のと看、どうすればよいかわかる。

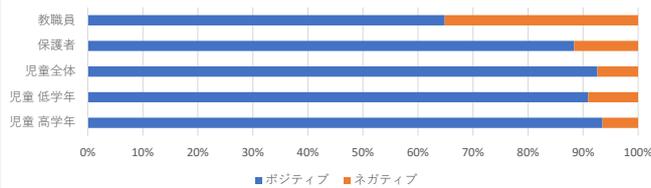
	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	92.1	89.8	93.9	95.7	92.9
ネガティブ	5.3	9.9	6.1	3.6	7.1



⑫設問18は、「災害時」の行動についてお尋ねしました。三者とも約9割が、地震や火事の時の行動がわかっていると回答しました。
 東日本大地震から10年経ちますが、先日も大きな余震がありました。いつ災害が起きるかわからない日本です。様々な機会を利用して、意識を持続させていきたいと考え設問に加えしました。
 学校では、避難するときの合言葉として「お・す・し・も」と指導しています。原則として、「おさない、かけない、しゃべらない、もどらない」ということです。ご家庭でも、忘れたところに話題にさせていただきたいと思ひます。また、水害や台風、雷や津波の際の避難の仕方や、保護者が帰宅困難になったときの対応、待ち合わせ場所なども予め話し合っておくと良いと思ひます。

19 不審者にあつたとき、どうすればよいかわかる。

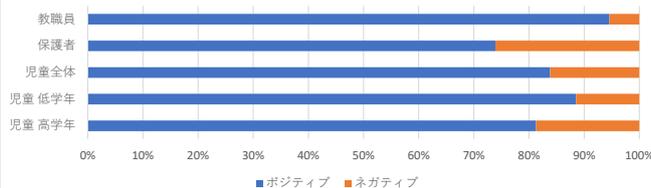
	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	63.2	88.4	92.6	90.9	93.5
ネガティブ	34.2	11.6	7.4	9.1	6.5



⑬設問19は、「不審者と遭遇したとき」の対応について尋ねました。児童の数値が高い理由は、学校で指導している「いか・の・お・す・し」を知っているからということだと思います。「声をかけられてもついていかない、車にのらない、おお声を出す、すぐに逃げる、大人に知らせる」ということですが、知っていることと実際に行動に移すことの間には大きな隔りがあると思ひます。これについても、ぜひ、ご家庭で話題にさせていただき、いざというときに正しく行動に移せるとよいと思ひます。
 学校では、地震や火事を想定した避難訓練の他、保護者への引き渡し訓練、不審者が校内に侵入してきたことを想定した安全教育やアラート対応（弾道ミサイル発射への対応）なども行っています。
 教職員だけでは、水消火器による消火訓練、AED（自動体外式除細動器）の使用訓練や人工呼吸の訓練、食物アレルギーによるアナフィラキシーショック発生時のエピペンの使用訓練などを行ってきました。
 何度も繰り返し訓練をして、いざというときに慌てずに行動できるようにしたいと思ひます。

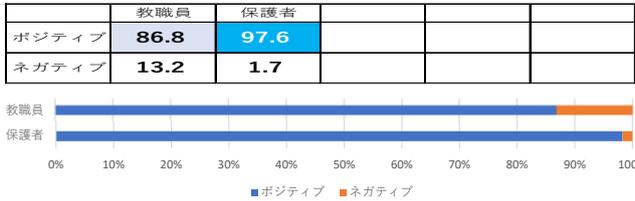
20 困つたとき、相談できる大人がいる。

	教職員	保護者	児童全体	児童 低学年	児童 高学年
ポジティブ	92.1	73.4	83.8	88.5	81.3
ネガティブ	5.3	25.9	16.2	11.5	18.8



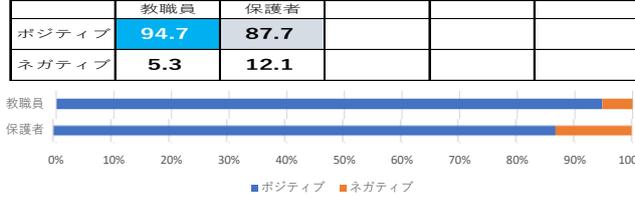
⑭設問20は、児童にとって安心して相談できる大人がいるかどうかを尋ねました。8割以上の児童が相談できる大人がいると回答しました。肯定的回答が8割強は喜ばしいことですが、残り2割弱の児童には相談できる大人がいないと考えているとすれば、非常に心配です。
 保護者の数値が若干低いのは、保護者の設問には条件があり、「保護者以外に」相談できる大人がいるかを尋ねたからだと思ひます。否定的回答は「相談できる友達ならいる」「誰もいない」「わからない」ですが、一番気になる回答は「誰もいない」ではなく、「わからない」という回答です。「誰もいない」という回答は把握しているということですが、「わからない」という回答は把握していないことであるからです。また、「あなたには親以外に誰か相談できる人はいる？」という会話を交わしていれば、答えられる内容だったからです。60人近くの方が「わからない」と回答していました。中には、お子さんに尋ねてみて「わからない」と答えたそのままを回答してしまった方もいるかもしれませんが、この件については、ぜひ、これをきっかけにして、今一度お子さんと話をしてほしいと思ひます。

21・学校は、教育方針（学校の考え）や教育活動の内容を学校・学年便りやHPで知らせている。



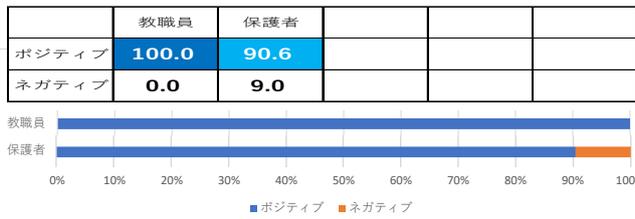
㉑保護者へのすべての設問の中で、この設問21が一番肯定的回答が多かったです。これを励みに、これからも学校・学年だよりの発行やホームページの更新で、保護者への情報提供を行っていきます。

22・学校は、児童それぞれの将来の幸せな生活を目指して、教育活動を行っている。



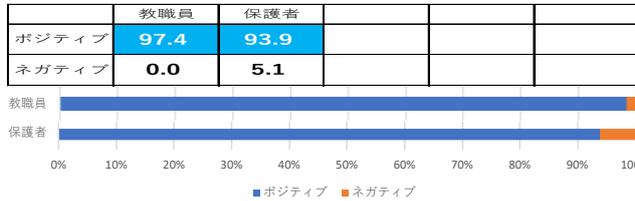
㉒教職員の回答が100%でなかったことが残念ですが、否定的回答としては、もっと身近な目標をもって教育活動を行っているということでした。教職に就いていながら、児童の将来や幸福を考えずに仕事をしている人はいないと信じます。

23・学校は、感染症拡大予防対策に取り組んでいる。



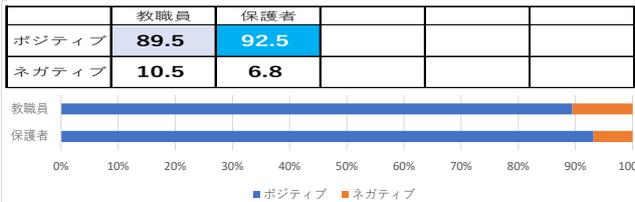
㉓保護者からの高い肯定的回答をいただき、たいへん励みになります。保護者の皆様に情報を提供することによって、ご理解とご協力を得て、共に予防対策を推進していけたらと考えています。解説については、設問16に詳しく掲載しましたので、ここでは省略いたします。

24・学校は、（感染症拡大予防を除く）安全対策や防災対策に取り組んでいる。



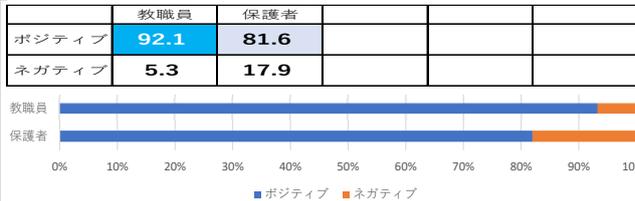
㉔二者ともに9割以上が肯定的回答をしました。解説については、設問17～19に詳しく掲載しましたので、ここでは省略いたします。

25・学校は、子ども達にとって生活しやすい環境を整えようとして心掛けている。



㉕保護者から9割以上の肯定的回答をいただき、励みになります。児童数が多い割に、教室や校庭が狭いという変えようのないものもありますが、それだけに多くの工夫が必要になってきます。気が付いたところから順次改善していきます。

26・学校は、いじめのない友達関係を育む環境を整えようとして心掛けている。



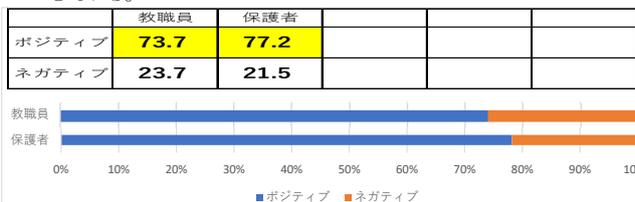
㉖保護者から8割を超える肯定的回答をいただきました。解説に関しては、設問1・4・5に詳しく掲載しましたので、ここでは省略いたします。

27・学校は、学力向上のために学習内容・教材・指導方法を工夫している。



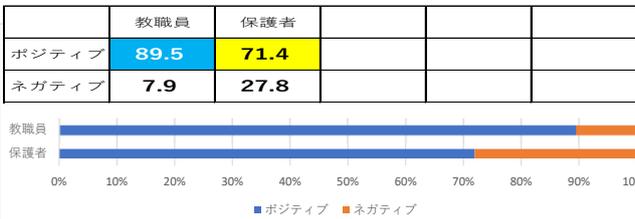
㉗保護者から8割を超える肯定的回答をいただきました。解説に関しては、設問11や12に詳しく掲載しましたので、ここでは省略いたします。

28・学校は、体力向上のために学習内容・教材・指導方法を工夫している。



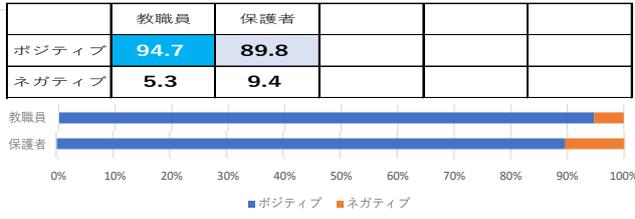
㉘二者とも7割台の肯定的回答にとどまりました。理由の一つとして、運動部の活動が一時的にしか実施できなかったことなどがあると思います。また、夏のプール学習や長縄跳びなども実施していません。しかし、学校では、体育の授業や業間休み・昼休みの短なわとびなど、感染予防対策を工夫して、できるものは例年同様に取り組んでいます。

29・学校は、休校での学習の遅れを取り戻すための工夫や努力をしている。



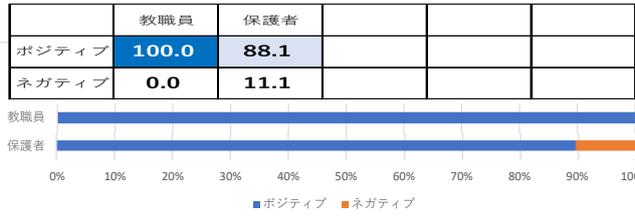
⑳保護者と教職員の肯定的回答に差が出ました。
 休校や分散登校で不足した授業時数は、夏季休業の短縮や通知票の配付を2回にしたことなどで、すべての学年が10月までには例年に追いつくことができました。また、国の施策によって「学習サポーター」をつけていただけたことや学生ボランティアの活用によってTTによる少人数対応が行えたことも良かったと思います。
 しかし、感染症拡大防止上、実施できずに来年度に持ち越す単元もありました。特に影響が大きかった教科と単元は、音楽全般と家庭科の調理実習でしたが、5年生以下は来年度実施できるようになりました。6年生は卒業してしまうため年度中に実施しなくてはならず、調理実習などは、学級を3分割し、普段1回で済む授業を3回に分け、器具や調理台の消毒もその都度実施しながら、1日ばかりで行いました。また、班で活動せず、自分ひとりで作って自分で食べる形の調理実習となりました。

30・学校は、行事や学習参観の運営に前向きに工夫して取り組んでいる。



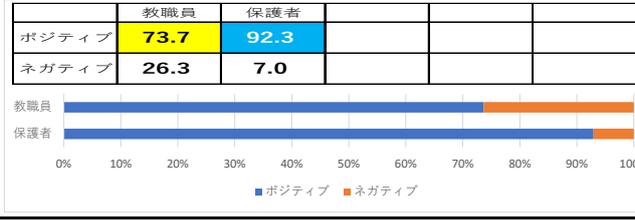
㉑行事や学習参観については、残念ながらコロナ禍で中止・内容の変更を余儀なくされました。修学旅行や林間学校のような宿泊を伴う旅行的行事は全市一斉に中止が決まりました。授業参観も学年ごとの運動発表会のみ実施しました。
 そのような状況の中で比較的肯定的回答が多かったのは、コロナ禍でも感染症拡大防止対策を取りながら、可能な方法を考え、できるものを模索して実施してきたからだと思います。

31・学校は、児童や保護者の相談に丁寧に対応している。



㉒これも二者の結果が分かれました。実際今年度は保護者会・学級懇談会が一度も行われず、家庭訪問もできなかったことにより保護者との対話の機会が少なく、コロナ禍の不安も作用して、誤解による行き違いや問い合わせもありました。
 この結果を重く受け止め、児童や保護者の相談に対しては、丁寧かつ真摯に対応していくことが重要であると全職員で再認識していきます。

32・学校は、PTAや地域やボランティア等と協力して教育活動を運営している。



㉓こちらも二者の結果が分かれました。学校支援ボランティアは、ほぼ例年と同様の活動が行えました。マスク作りやサンテラスのペンキ塗りなど、昨年度行わなかったことも行っていただき、とても助かりました。ミシンのこぎりの実習にも例年同様ボランティアの手をお借りしました。
 しかし、PTA行事ができなかったこと、地域人材の活用を控えたことなど、全体的には、やはり例年のような教育活動の協力が行えなかったことが、教職員の回答に反映したと思われます。